

---

# ボクと旅する

デンジャラス☆じ～さん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ボクと旅する

### 【Nコード】

N3807B

### 【作者名】

デンジャラス☆じくさん

### 【あらすじ】

少年は道中、村をみつけました。そして、一軒の家に泊めてもらいます。そしてその夜。。。。

## (前書き)

この物語はフィクションであると思いたいので、登場人物、その他は実在しないと思ってください。それではどうぞ

「どうして旅をしているの？」

とても幼い、可愛らしい声が聞きます。

「僕のお家がなくなっちゃったからさ」

先程の声より、少し大人びた男の子の声が答えます。

「どうしてなくなったの？」

幼い声はまた聞きます。

「スツゴクおっきな津波がきて、家、というか町が波にのまれたからだよ」

男の子の声が答えます。

なんだか、すこし、寂しげに。

「じゃあ、どうして自転車なの？」

「とつても乗りやすいからさ」

「じゃあじゃあ、どうしてお兄ちゃんは短パンにTシャツなの？」

「とつても動きやすいからさ」

「じゃあね、じゃあね・・・」

そうやって、夜中まで幼い声の質問攻めは続きました。

「おはようございます」

二階から降りてきたのは青い短パンに白いTシャツを着た、まだ12歳くらいに見える少年です。

「ああ、おはよう。」

太く優しそうな声で、少し太り気味のおじさんが言いました。「昨日はよく眠れたかい」

おじさんが聞きます。

「はい。とっても気持ちよく眠れました」

少年が笑って答えました。

「ほんとかい？うちの子がうるさくなかったかい？あの子は昔から知りたがり屋でね。この辺りで有名にまでなってしまったほどだ」  
おじさんも笑っています。

「はい。たくさん聞かれて、たくさん答えて。とても楽しかったです」

少年が言うと、

「そりゃあよかった」

とおじさんは新聞読みながら言いました。

「もう行くのかい？」

おじさんが少年に聞きました。

「はい。あの子起きる前に、行ってしまいたいんです。悲しくなるから」

少年は下を見て言いました。

「そうかい。また、いつかよってくれ。もてなすよ」

おじさんは元気一杯にそう言いました。

下を向いていた少年も、つい元気よく

「はい。また来ます。」

と言いました。

「それじゃあ、気を付けて」

「はい。さよなら。ありがとうございました」

会釈をして、少年は自分の自転車の鍵を外し、力強く、太陽が昇る方向と反対の方向に向かって、ペダルを漕ぎだしました。

その小さくなっていく少年の背中を、二階の窓から、知りたがり屋の男の子が今にもこみあげてきそうな顔で見っていました。

少年の影が、完全に消えるまで。

☆  
~  
e  
N  
d  
~  
☆

## （後書き）

いかがでしたか。暇潰しシリーズ第2段。面白くないかもしれません。が最後までよんで下さった方。ありがとうございます。これからもぜひ！！よろしくお願いいたします。もっと楽しい楽しい暇潰しできるお話を書いていたらと思います。それではまた、機会があれば。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3807b/>

---

ボクと旅する

2011年1月9日04時11分発行